

# 上川町内に酒蔵新設

## 三国シェフ関係者 来年9月に醸造

【上川】札幌市在住の会社役員が、三重県の酒造会社を買収し、「上川大雪酒造」を設立、2017年9

月の醸造開始を目指し、上川管内上川町に新たな酒蔵の建設に着手したことが13日、分かった。道産米10

0%の日本酒造りを目指す。道内の酒蔵の新設は、1998年に合同酒精（東京）が旭川市内に「大雪乃蔵」を開設して以来。

酒蔵建設を進めているのは、フランス料理家の三国清三さん（62）＝留萌管内増毛町出身＝が代表を務める三国ブランニング（東京）の副社長、塚原敏夫さん（49）。今年8月、日本酒製造を休止中だった三重県四日市市の酒造会社「ナカムラ」を買収し、社長に就任。上川町内に移転登記し、11月に社名変更した。

新設する酒蔵は、鉄骨造り2階建て約300平方メートルで11月に着工、17年5月完成予定。上川管内の豊かな自然をイメージし、「緑丘蔵」と名付けた。同管内愛別町など近郊の道産酒

米「吟風」「慧星」（慧星）「きたしずく」を使い純米、純米吟醸、純米大吟醸を製造、年間生産量は60キロを見込む。杜氏には10、14年に金滴酒造（空知管内新十津川町）に在籍した川端慎治さん（47）を起用する。酒蔵の建設費は約2億円。

上川町への進出については塚原さんは、「大雪山系の釀の良質な天然水と、近郊で酒米が生産されていることに着目した」と説明。13年4月に三国さんが監修したレストランが町内に開業した縁があったことも理由とし、「上川名産の日本酒を造り、地元の観光振興や道産酒米のブランド化にもつなげたい」としている。

上川町の佐藤芳治町長は「地酒があれば観光客の満足度が高まり、雇用や地域経済の活性化も期待できる。きれいな水は町の誇りで、活用されることは喜ばしい」と歓迎している。